公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信　2015年8月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆私たちの探鳥会自慢・・・・・・・・・・・1
「山形・鳥女会見参！」
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・・3
（2015年6月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・5
・「探鳥会保険のご案内」を改訂いたします
・『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み
・新入会員の方へ『ワイルドバード・カレンダー2016』をプレゼントします
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・・9
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・10
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・10

◆私たちの探鳥会自慢

山形県支部が取り組んでいる鳥女会（とりじょかい）について記事をいただきました。

「山形・鳥女会見参！」

どんよりした梅雨空を見上げていたら、携帯にメールが入った。簗川支部長だ。

こだな感じだべが？（注：山形弁で「こんな感じかな？」の意）

【コース】N 公園駐車場集合 8:30→K の森 9:00→Sさん家 11:00→（昼食）→N公園解散。
【持ち物】傘・人ん家（巣）を覗き見する度胸
【見どころ】K の森（ほとんど歩かない）＝コサメビタキの巣（昨日抱卵中）、ノジコ、イカル、オオヨシキリ、ホトトギス、ミソッチョなど。Sさん家＝コチドリの巣（抱卵中らしい）

おお！みんな喜ぶだろうな、とさっそく一斉メールを打ち始める。

件名：鳥女会のご案内
今回の隊長：簗川さんです。
6月14日（日）N公園には足湯があります、車で10分で温泉です。帰りにどうでしょ

今日は木曜日。昨日の夜、簗川さんから「コサメビタキの巣、鳥女会で※見に行がねがっス？土曜か日曜あたりで。」（※山形弁で「行きませんか？」の意）
とお誘いをもらって、鳥女の皆さんに日程調整のメールを打つ。でも、急なことだし（普段は1 週間位前には企画）、天気は悪いし、脚に自信のない人もいるしと、ちょっと及び腰でいた。コサメの巣なんて、どんなケモノ道たどっていくのやら。
念のために隊長に確認する。
「まったく歩かない！車停めたその場で見られる」
とのこと。もう一度皆さんにメールする。文字を打つその先から続々と返事が届く。皆さん、探鳥会のない週末でじれてた模様。

『すごい！コサメビタキの巣！どんなのかな？』

『Sさん家、お宅訪問しちゃうの？どきどきする～』

『いや、コチドリはＳさん家の隣の空き地に営巣だから』

『うわあ、わくわく』

年代も鳥歴も様々な女性たちが一斉に盛り上がる。

鳥歴が一番長い私が世話役におさまって、※鳥女会が山形で動き出して、かれこれ３年が経つ。（※簗川さんは二言目には「妖怪・とりおんな～」と言う。初めは鳥ガールの会にしようと提案したが役員会で却下）

曜日にかかわらず、ゲリラ的に旬な鳥情報で速攻企画の鳥女会。そもそもは山形県支部歴は長いが（35 年超）あまりにビギナーな私が、簗川支部長に

「山形のどこさ行ぐど〇〇観れんの？」

「△はどこさ居んの？」

としつこく聞き、あげく

「N 沼ってどこ？今度連れてげな～」

と、先輩会員の立場を悪用してガイドの強要していたところへ、最近よく探鳥会で顔を合わせる女性たちが平日にも鳥を見たいけど教えてくれる人がいないとねえ、と話しているのが聞こえてきた。

というか、初め鳥歴の長い私をガイドにと思ったらしい。私は高校卒業後すぐに山形を離れて各地を転々としながら育児に追われて、県外の公園か庭先での鳥見がせいぜいの万年ビギナー。広い山形を網羅するガイドは荷が重い。適任と言えば…。

簗川支部長は鳥歴は２年ばかり後輩で、私が花？の女子高生の頃、紅顔の美？少年の中学生だった。２５年ぶりに山形に帰ってみれば、中学生は見事に鳥男に成長し、しかも支部を背負って立っていた。おまけに定職を投げ打ってプロの鳥ガイドになっちゃって…平日も動けるじゃん。あともう一人、初代事務局長の今野さんも県外で単身赴任生活をしていたのがめでたく定年退職して山形へ戻ってきて事務局長に返り咲いておりました。平日、大丈夫ですね。

こうして優秀なガイドを確保し、口コミでメンバーが揃い、西にチゴモズが出たと聞けば海辺へ走り、東にイワヒバリが出たといえば山に登りと、鳥女な人たちは常にスクランブル状態で待機中。

少人数なので小回りが利き、探鳥会ではちょっと遠慮しちゃうような素朴な疑問もバンバン聞ける。

「バンとオオバンってどう違うの？」

旨いけど狭い手打ちそばの店にも入れる。有名なラーメン店にも並べる。トイレ休憩も頻繁に。お茶もお菓子もふんだんに。

▲鳥女会の様子

鳥好きな友達が数人寄って、鳥見に行くってこととどう違うの？と言われそうだけど、なにしろ隊長が毎回すごネタ披露してくれる。気が付けば３年足らずで私も山形の鳥見人としてのレベルがかなり上がった。情報と経験と感動とが人を育てるのねえ、などとしみじみしながら、夕暮れの神社の木立で独り、トラフズクの巣立ち雛の兄弟を観ていたりするこの頃だ。連れて行ってもらって、実際に観て、いろいろ教えてもらって、驚いたり感心したりして、この地にこの鳥がこうして棲んでいることの「意味」を理解していく。この感動を、どんどん人に伝えていきたい。その入り口のひとつに鳥女会がなれれば嬉しい。

結局、その翌日コチドリが巣立ったらしくいなくなったと情報が入り、日曜日の「お宅訪問」はコサメちゃん家のみになりましたが、どう見ても木のコブにしか見えない巣でじっと座ってつぶらな瞳をきらきらさせてたコサメちゃん。みんなが

「あれはお母さんだよ」

と言い張りましたが。ではコサメ父さんはいずこだったのか？　いつの時代も母は強し。

（山形県支部／細谷千鶴子）

◆探鳥会保険集計結果（2015 年 6 月分）

6 月は 69 支部からご報告をいただき、計 229 回の探鳥会が開催され、のべ 4,752 人が参加されました。

表 1.6 月の探鳥会保険集計結果（2015 年 7 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員(人)	非会員(人)		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	4	71	12	4	87
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	2	13	29	7	49
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	2	14	24	2	40
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	4	95	58	12	165
小樽支部	3	6	18	4	28
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	1	13	1	3	17
函館支部	0	0	0	0	0
道南桧山	1	11	4	3	18
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	2	9	2	2	13
秋田県支部	4	48	16	5	69
山形県支部	3	16	6	4	26
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	1	23	6	4	33
北上支部	1	6	0	1	7
宮城県支部	3	39	9	6	54
ふくしま	2	35	4	4	43
郡山支部	1	12	0	3	15
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	2	0	0	4	4
会津支部	−	−	−	−	−
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	13	2	1	16
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	8	85	55	12	152
栃木	−	−	−	−	−
群馬	6	67	25	18	110
吾妻	1	4	0	1	5
埼玉	6	118	40	43	201
千葉県	6	56	21	26	103
東京	12	324	11	56	391
奥多摩支部	10	98	25	36	159
神奈川支部	10	99	35	38	172
新潟県	1	23	0	3	26
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	2	30	18	2	50
石川	1	3	2	17	22
福井県	1	17	3	1	21
長野支部	1	18	4	2	24
軽井沢支部	1	15	12	1	28
諏訪	2	12	12	4	28
木曽支部	-	-	-	-	-
伊那谷支部	2	12	7	4	23
甲府支部	2	40	8	4	52
富士山麓支部	0	0	0	0	0
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	2	30	0	4	34
南富士支部	3	83	9	5	97
南伊豆	1	8	0	2	10
静岡支部	6	41	0	12	53
遠江	4	68	12	13	93
愛知県支部	7	63	64	18	145
岐阜	-	-	-	-	-
三重	0	0	0	0	0
奈良支部	3	46	16	6	68
和歌山県支部	1	0	10	4	14
滋賀	4	22	14	8	44
京都支部	5	76	29	9	114
大阪支部	22	336	78	96	510
ひょうご	5	67	53	14	134
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	4	47	22	4	73
島根県支部	1	9	6	1	16
岡山県支部	4	69	42	9	120
広島県支部	4	28	49	11	88
山口県支部	5	40	14	5	59
香川県支部	4	106	36	4	146
徳島県支部	5	60	12	5	77
高知支部	1	6	7	1	14
愛媛	4	55	37	8	100
北九州	4	53	13	4	70
福岡支部	7	116	14	16	146
筑豊支部	3	29	0	3	32
筑後支部	4	50	34	6	90
佐賀県支部	1	15	8	1	24
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	2	45	6	3	54
大分県支部	1	17	6	1	24
宮崎県支部	2	17	6	2	25
鹿児島	1	19	4	4	27
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	-	-	-	-	-
全国	229	3,066	1,070	616	4,752

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■「探鳥会保険のご案内」を改訂いたします■

毎年８月５日は、財団が契約している探鳥会保険の契約更改の日です。契約更改に合わせて、「探鳥会保険のご案内」を改訂してお送りしていますが、今回は宿泊を伴う探鳥会について Q&A に追記しました。

◇これって宿泊型？　日帰り型？

昨年より、宿泊を伴う探鳥会の保険適用についての問い合わせをいくつかの支部からいただいておりました。

これまでは、「宿泊を伴う探鳥会は探鳥会保険では対応できませんので、別途国内旅行保険をかけてください。」と回答させていただいておりましたが、お問い合わせの中には、宿泊とも宿泊でないとも判断がつきにくいものがいくつかありました。

具体的には、夜間から早朝にかけて複数の探鳥会を実施し、宿泊される方と宿泊しない方が混在しているケースです。

こうしたケースについて保険会社と折衝を重ねてまいりましたが、以下のような形で整理することができました。

次回からのイベントの企画の際の参考にしていただければと思います。

- HP などの告知で宿泊の案内が入っているものは原則的には宿泊型の探鳥会となり、探鳥会保険の適用範囲外となります。
- ただし、以下の二つの条件を満たしている場合は、宿泊されない方のみ探鳥会保険でカバーできます。
  - ①2 日間にまたがる場合であっても、集合から解散までの時間が 24 時間以内である。
  - ②宿泊される方の名簿が事前に作成できており、宿泊する人しない人の切り分けができている。

「探鳥会保険のご案内」は、今月の「探鳥会スタッフ通信」に同封してお送りいたしますのでご参照ください。

（普及室／箱田敦只）

■『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み■

増補改訂新版を購入された方からいただくアンケートには、「これまでとあまり変わっていない」とか「目録７版の掲載順に並べないのは詐欺だ」など、中身をよく読んでいないと思われるご意見も少なからずあります。掲載順については P13 で解説しているし、この連載では同じような文章を昨年 11 月号にて先に紹介し、今年の２月号で補足しました。目録７版に対応させる考え方もたびたび触れてきたつもりですが、すべての亜種までリストにして、多くの亜種の分布、検討を要する亜種や亜種不明に至るまで目録７版に沿って記した図鑑が他にあるでしょうか？

この連載の読者の皆様におかれましては、新版を手に取られれば、多くの修正箇所にお気づきになるでしょう。野鳥誌で増補改訂新版を紹介する企画は 11 月号になりそうですが、2007 年に増補改訂版を発行した際には、同年の野鳥誌 10 月号で経緯を、11 月号では修正事例も紹介しました。ここでは、野鳥誌で触れなかった増補改訂版での修正点も解説しておきたいと思います。

◇高野の良心

2007 年 11 月号では、解説文の修正事例としてメジロガモのように記録が増えたもの、ミヤマガラスのように分布が拡大したもの、オオヨシゴイなど減少著しいものなどを紹介しました。

なお、分布や増減については、すでにわかっているように誤解している人、固定的に捉えている人が多いので、新版では P13 で「今なお不明の地域もあるし、変化もする」と補足してあります。『新・山野の鳥』でも「分布や習性などはわかっていないことも多く、また変わることもありますので、見分けるための目安ととらえて下さい」と書いてあります。多くのことがわかっているように記載される図鑑が多い中で、高野伸二が、自身が確信できないことは、はっきり「わかりません」と言っていた良心を引き継いでいきたいと思っています。

一方で、オオクイナの声のように高野が自ら確認できていないので「・・・といわれる」「・・・と思われる」という書き方をしていた部分は、増補改訂の際に確認できたことは言い切るように修正しました。

図版の修正は今回の新版では 100 箇所に及びますが、2007 年 11 月号ではコガモ雌の飛翔図の修正だけ紹介してあります。

◇新たな知見による修正

増補版以前の『フィールドガイド日本の野鳥』をお持ちの方は、よく見比べていただくと気づかれるはずですが、実は、増補改訂の際にもかなりの図版修正をしました。が、歴史的な高野作品を残したいという思いは、高野図版の修正をお願いした谷口高司さんも同じ。高野さんから直接手ほどきを受けていた谷口さんが、高野さんと同じ絵の具を使ってこそ可能とはいえ、「高野さん、ごめんなさい」とつぶやきながらの、辛い作業でした。

例えば、最初の図版頁のオオハムやシロエリオオハム（増補版 P27、増補改訂及び増補改訂新版では P25）は、高野さんが亡くなった後に明らかになってきた識別点から、数箇所も修正してあります。ただし、谷口さんの技術によって高野原画を損なわないようにしていますので、よく見比べないと気づかれないでしょう（新版では、さらに夏羽の前頸の色味に微修正を加えた）。

もっと気づかれないだろう修正事例は、次に登場するカイツブリの仲間。増補改訂以後はミミカイツブリ冬羽の眼先に赤い線を描き足してありますが、視力が弱い方には虫眼鏡が必要かも知れません。ハジロカイツブリの飛翔図も注視すれば、風切羽の白色部分がミミカイツブリと違うように直してあります（新版では、さらにミミカイツブリの白色部の形を直した）。

オオハムの修正箇所の一つ、脇後方（オオハムではシロエリオオハムより白く見える）を直したのがウミガラス類です。増補版までは、ウミガラス・ハシブトウミガラスの夏羽に暗色の縞模様が描かれていましたが、その縞模様はウミガラスの識別点として有効であることがわかってきたので修正し、さらにウミガラス飛翔図の翼下面も直しました。翼下面では、次の頁に掲載されているカンムリウミスズメも変わっていますが、わかりますか？（増補版までは暗色に描かれていた下雨覆を、増補改訂の際に白くした）

ほかにもカモメ類のくちばしの成長段階による変化がわかってきたので描き直したり、野外識別で役立つように、ハジロクロハラアジサシの腰の白を類似種より目立つようにしたり

しています。

◇キャプションなどの修正

サシバの幼鳥では眼を暗色に直したし、高野がハチクマの２つのタイプとして描いたものが、その後に判明した雌雄の違いとして示せるので、図版の尾羽を差し替えるなどのウルトラCも試みました。

キャプションを直した例では、クロアシアホウドリをあげておきましょう。高野は上尾筒・下尾筒が白いものを若鳥として描いていましたが、その後、上・下尾筒の色は個体差があることがわかってきたので、増補改訂で「若鳥」を削除しました。コホオアカの雄夏羽、雌冬羽として描かれた図版も、雌雄や季節で違うのは確かだが個体差も多いので、２つのタイプとしたほうが適切だろうという見解に沿わせました。

身近な野鳥の修正事例ではシメもあります。当時は色味で雌雄を見分けていたように思いますが、高野原画もチェックしてみたら「雌冬羽」とされていた図版に、雌の識別点となる次列風切の淡色部が確認できません。増補改訂でキャプションを「雄冬羽」に変えて、雌の識別点を解説文に加えた次第です。

キャプションとともに解説も変えた例では、カルガモやコベニヒワがあります。増補版までは「雌雄同色」と記されていましたが、近年、似ている雌雄も見分けようとする方も増えてきました。例えば、カルガモでは雄の方が上・下尾筒の黒味が強い傾向があることは論文にもなっているので、「雌雄同色」という図版のキャプションを削除して、解説で雌雄の違いに触れるようにしました。

また、サシバの雌雄の違いのように、図版・キャプションともそのままにして、解説文の中で書き足したものもあります。

（普及室／安西英明）

▲画像の紹介、今回は新版で直した図版の例として、裏表紙のアオゲラです。
高野原画の色味をすべてチェックしたところ、アオゲラは裏表紙より、
解説用図版の方が色が適切だったので、解説図版の色味に合わせるようにしました。

■新入会員の方へ『ワイルドバード・カレンダー2016』をプレゼントします■

今年（2015 年 1～12 月）に入会申し込みをされたみなさまへ、当会オリジナル『ワイルドバード・カレンダー2016』をプレゼントいたします。たくさんの方にご入会いただき、ますます活動の輪をひろめていければと期待しております。

ぜひ、入会をご検討の方におすすめいただき、入会促進にお役立てください。どうぞよろしくお願いいたします。

◇プレゼントの概要

【対象】
2015 年中に、「公益財団法人日本野鳥の会」に入会申し込みをされた方。
≪対象の会員種別≫
おおぞら会員、青い鳥会員、赤い鳥会員、個人特別会員
（家族会員の方は、ひとつのご家族につき一本となります。）
【プレゼント内容】
『ワイルドバード・カレンダー2016』１本を財団事務局よりご登録のご住所に郵送いたします。
【お届け時期】
『ワイルドバード・カレンダー2016』は 2015 年９月頃完成予定です。
そのため、お届けは 2015 年９月以降とさせていただきます。

▲ワイルドバード・カレンダー（2015 年版）

◇支部のみなさまへチラシ配布のお願い

- プレゼントの案内用チラシがございますので、入会案内と一緒にお配りくださいますようお願いいたします。
- チラシ配布にご協力いただけます場合には、通常のパンフレット類のご請求先　[会員室会員グループ（TEL 03-5436-2630／FAX 03-5436-2636）]まで「新入会員カレンダープレゼントチラシ希望」とお伝えの上、必要部数をおしらせください。事務局よりお送りいたします。

◇お問い合わせ

公益財団法人日本野鳥の会　普及室
販売出版グループ
TEL：03-5436-2623
メール：birdshop@wbsj.org
ホームページ：
http://www.wbsj.org/join/join-and-changes/personal/join-gift/

（普及室／江面康子）

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信８月号の電子メール版の購読者数は、先月と変わらず 759 名です。
支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表2．探鳥会スタッフ通信８月号電子メール版の購読者数（2015 年７月 27 日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
小清水	1	福井県	10
オホーツク支部	6	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪	4
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70	木曽支部	1
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	2
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	4	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	2
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	4	静岡支部	3
函館支部	0	遠江	6
道南桧山	2	愛知県支部	33
青森県支部	1	岐阜	5
弘前支部	4	三重	19
秋田県支部	3	奈良支部	3
山形県支部	3	和歌山県支部	2
宮古支部	1	滋賀	19
もりおか	3	京都支部	31
北上支部	2	大阪支部	24
宮城県支部	39	ひょうご	9
ふくしま	3	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	2
二本松	1	岡山県支部	23
白河支部	2	広島県支部	7
会津支部	2	山口県支部	4
奥会津連合	0	香川県支部	6
いわき支部	1	徳島県支部	5
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	14
茨城県	21	北九州	12
栃木	45	福岡支部	12
群馬	24	筑豊支部	20
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	36	佐賀県支部	4
千葉県	18	長崎県支部	1
東京	49	熊本県支部	5
奥多摩支部	47	大分県支部	2
神奈川支部	18	宮崎県支部	3
新潟県	1	鹿児島	1
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	3	石垣島支部	1
石川	4	西表支部	2
		合計	759

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

毎日暑い暑いと唸る日々ですが、それでも木陰は涼しく感じ、緑のありがたさが身に沁みます。そんな中せっかく、鳥を見に出かけても姿は木の葉で見えず、声は蝉の声にかき消されて聞こえにくい・・・でも、先日は飛んでいるタマムシを見ることができ、ちょっと盛り上がりました。

鳥が見にくいこの時期に、見どころを見つけてくださるリーダーの方は、とても有難い存在だと実感します。

（普及室／植木陽子）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第29号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2015年8月11日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田3-9-23丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org